

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 簿記・情報・観光等の科目を学ぶ商業学科の特性を活かして地域のニーズや社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や社会を支える人材を育成する。
- 1. 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し、目標達成に向かう自己実現力を育む。
 - 2. 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、社会での役割を自ら見出し、主体的に役割を果たそうとする人材を育成する。
 - 3. 本校で身につけた知識や経験をもとに、様々な困難に立ち向かい、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。
 - 4. 市民や地域の期待に応え、生徒が楽しく、意欲的に学べる環境や取組みの充実した学校をめざす。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
- (1) 「わかる授業、学力が定着する授業、進路に結果をだす授業」をめざして授業改善に取り組む。
- ア 基礎基本の充実をはかり、ICT 機器の活用、商業科を中心とした実践的な授業、教科等横断型授業を行い、わかりやすく楽しい授業を通じて、生徒の学習意欲向上に繋げる。
 - イ 「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、公開授業や校内研究協議を活性化することで授業力の向上を図る。
 - ウ 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を図る。
- ※学校教育自己診断(生徒)「授業は、わかりやすく楽しい」の肯定率を、令和 10 年度に 80%以上にする。(R 5 66% R 6 71% R 7 77%)
- ※学校教育自己診断(教員)「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率を令和 10 年度に 70%以上にする。(R 5 50% R 6 62% R 7 64%)
- 2 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度の育成
- (1) 商業教育、キャリア教育を系統的、積極的に推進し、将来、他者と協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。
- ア 「ライフプランニング」、*「志学」*、LHR を活用し、3年間を見通したキャリア教育を通じて、主体的に進路選択する力を育成する。
 - イ 商業に関する知識、技術を確実に習得させ、経済社会を担うための実践的な態度を養う。
- ※進路未決定者を令和 10 年度にはゼロとする。(未決定率 R 5 7.8% R 6 7.0% R 7 10.9%)
- ※全国商業高等学校協会(全商)の各種検定受験者の延べ人数 1000 人以上を維持する。(R 5 ※※ R 6 1080 人 R 7 953 人)
- (2) 基本的生活習慣を確立させるとともに、社会の一員としての基本的姿勢の形成をめざし、規範意識の醸成、道徳心の涵養を図る。
- ア より良い学校生活を送り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立させる。
 - イ あいさつの励行、身だしなみ、公共のルールやマナーの重要性についての指導を徹底し、集団生活における規範意識、道徳心を育成する。
- ※遅刻件数の一人平均を前年度未満をめざし、毎年減少させる。(R 5 5.3 件 R 6 5.4 件 R 7 4.3 件)
- 3 地域や社会の期待に応え、生徒が楽しく意欲的に学べる魅力ある学校づくり
- (1) 子どもが安全・安心に学校生活を送り、成長できる環境の整備
- ア 生徒が学校中心の生活を送れるような明るく楽しい学校づくりの推進
 - イ 生徒が健全な学校生活を送るための保健管理と環境美化
 - ウ 人権教育の推進と一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援教育の充実
 - エ 関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材活用による中途退学・不登校の未然防止
- ※学校教育自己診断(生徒)「学校へ行くのが楽しい」の肯定率を毎年 80%以上とする。(R 5 66% R 6 66% R 7 68%)
- ※学校教育自己診断(教職員)「この学校では清掃が行き届いている」の肯定率を毎年 90%以上にする (R 5 70% R 6 81% R 7 89%)
- ※学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率を毎年 85%にする (R 5 70% R 6 81% R 7 80%)
- ※年間の転退学件数を令和 10 年度に 20 件未満にする。(R 5 56 件 R 6 48 件 R 7 55 件)
- (2) 広報活動、渉外活動を充実させ、学校情報を積極的に発信する。
- ア 体験入学、学校説明会、学校ホームページ、SNS を活用した学校情報発信を積極的に行う。
 - イ 地域や企業等と連携した取組みを情報発信し、商業科の特色、住吉商業の魅力を広報する。
- ※入学者選抜における志願倍率を 1.00 倍以上とする。(R 5 0.88 倍 R 6 0.87 倍 R 7 0.72 倍)
- 4 労働安全衛生管理体制の充実
- (1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。
- ア ICT を活用した業務の効率化、業務量・業務分担の整理、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る
 - イ 部活動方針を遵守し、適切に休養日を設定するなど、適切な指導・運営体制を構築する
- ※年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 7 年度値〕	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成	（１）「わかる授業、学力が定着する授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。 ア 基礎基本の充実をはかり、ICT 機器の活用、商業科を中心とした実践的な授業、教科等横断型授業を行い、わかりやすく楽しい授業を通じて、生徒の学習意欲向上に繋げる。 イ 「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、公開授業や校内研究協議を活性化することで、授業力の向上を図る。 ウ 主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を図る。	ア・教科等横断型の取組を授業など授業展開の工夫を行う。 ・外部機関と連携した取組を推進し、商業に関するより実践的な知識、技能を習得させる。 ・リーディング GIGA ハイスクール事業の取組を踏まえ、校内での ICT を活用した授業公開を行う。 イ・公開授業週間を年間３回設定し、教員相互の授業見学を通して、自身の授業の改善を図る。 ウ・生徒の興味・関心を踏まえ、授業において生徒発表の機会を創出し、積極的に授業に取り組む姿勢を養う。	・教科等横断型の取組みを３回以上実施する ・地域・企業と連携した取組を 30 事業以上実施する。〔32 事業〕 ・ICT を活用した公開授業を３回以上実施。〔２回〕 ・学校教育自己診断（生徒）の「授業は、わかりやすく楽しい」を 75%。〔77%〕 イ・学校教育自己診断（教職員）「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」90%以上。〔80%〕 ・学校教育自己診断（教職員）の「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」を 65%以上。〔64%〕 ウ・学校教育自己診断（生徒）の「自分の考えをまとめ発表することがある」を 80%以上。〔84%〕 ・学校教育自己診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」85%以上〔83%〕	

2 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度の育成	(1) 商業教育、キャリア教育を系統的、積極的に推進し、将来、他者と協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。 ア 「ライフプランニング」、「志学」、LHR 等を活用して、3年間を見通したキャリア教育等を行う。 イ 商業に関する知識、技術を確実に習得させ、経済社会を担うための実践的な態度を養う。 (2) 基本的生活習慣を確立させるとともに、社会の一員としての基本的姿勢の形成をめざし、規範意識の醸成、道徳心の涵養を図る。 ア より良い学校生活を送り、落ち着いた学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立させる。 イ あいさつの励行、身だしなみ、公共のルールやマナーの重要性についての指導を徹底し、集団生活における規範意識、道徳心を育成する。	ア・学校設定教科「ライフプランニング」、「課題研究」を中心に体験型学習を取り入れ、キャリア教育の充実を図るとともに、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の育成を図る。 ・「ライフプランニング」を中心としたキャリア教育の充実を図り、進路意識を持ち、主体的に進路選択できる生徒を育成する。 イ・教育活動のあらゆる場面で進路意識の醸成を図る中で、各種資格取得への意欲を喚起し、進路実現に向け努力する態度を養う。 ア・基本的生活習慣のうち、特に時間を守る習慣を身につけさせるため、毎日の遅刻指導をはじめ、授業、集会等のあらゆる機会を通じて、時間遵守の指導を徹底する。 イ・全教職員の共通理解のもと、連携した生徒指導、生活指導を徹底し、規範意識の醸成、道徳心の涵養を図り、学校生活を安定して送れるよう指導する。	ア・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」を 85%以上。[87%] ・学校教育自己診断(生徒)「進路についての情報をよく知らせてくれる」を 90%以上。[86%] ・進路決定者を 95%以上とする。[89%] イ・全国商業高等学校協会(全商)の各種検定受験者ののべ人数を 1100 人とする。[953 人] ウ・今年度の一人当たりの平均遅刻件数を前年度未満とする。[4.3 件] ・今年度の転退学件数を 35 件未満とする。[55 件]	
------------------------------------	---	--	---	--

3 地域や社会の期待に応え、生徒が楽しく意欲的に学べる魅力ある学校づくり	(1) 子どもが安全・安心に学校生活を送り、成長できる環境の整備 ア 生徒が学校中心の生活を送れるような明るく楽しい学校づくりの推進 イ 生徒が健全な学校生活を送るための保健管理と環境美化 ウ 人権教育の推進と生徒の教育的ニーズに応じて支援教育の充実 エ 関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材活用による中途退学・不登校の未然防止 (2) 広報活動、渉外活動を充実させ、学校情報を積極的に発信する。 ア 体験入学、学校説明会、学校ホームページ、SNS を活用した学校情報発信を積極的に行う。の連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。 イ 地域や企業等と連携した取組みについて情報発信し、商業科の特色、住吉商業の魅力を広報する。	ア・体育祭・文化祭等の学校行事において、生徒が主体的に行事を運営し、生徒全員が協力することの大切さや自身が楽しい学校づくりの主体であることを理解させ、何事に対しても率先して取り組む態度を育成する。 イ・保健委員を中心とした保健活動の活性化を図る。また、「保健だより」を定期的に発行するなど、健康管理の徹底、環境美化に努める。 ウ・教職員対象の講習会や生徒対象の講演会を開催し、教職員や生徒の人権意識の向上を図る。 エ・SC や SSW 等の専門人材と連携し、中途退学防止に向けて相談体制を強化する。 ・生徒一人ひとりが安心して学校生活が送れるよう、支援会議等の開催により生徒指導に係る情報共有をおこない、教員がカウンセリングマインドをもって適切に生徒に接する。 ア・体験入学、学校説明会の開催時期、回数、実施内容等を精査し、より効果的な情報発信に努める ・学校ホームページ、SNS を活用し、日常の学校生活の様子を発信し、中学生が興味・関心身近に感じてもらえるよう PR していく。 イ 観光コース、株式会社など本校の特色を生かした地域、企業、大学等と連携した取組を推進する。	ア・学校教育自己診断(生徒)「体育祭・文化祭が楽しく行えるよう工夫されている」90%以上を維持する。 [81%] イ・学校教育自己診断(教職員)「この学校では、清掃がいきとどいている」70%以上[89%] ウ・人権に関する講習会・講演会を4回以上開催する。 [5回] エ・今年度の中途退学者を前年度未満にする。[21人] ・学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」80%以上[80%] ア・体験会・説明会の実施を5回以上とし、参加生徒等延べ200人以上とする。 [5回 249人] ・学校ホームページ更新回数を年間300回以上とする。 イ・企業、大学等の外部講師による授業を年間30回以上実施する。 [33回] ・地域・企業と連携した取組を30事業以上実施する。 [32事業]	
4 労働安全衛生管理体制の充実	(1) 大阪府立学校のエducation職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。	ア・ICT を活用した業務の効率化、業務量・業務分担の整理、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る。 ・部活動方針を遵守し、適切に休養日を設定するなど、適切な指導・運営体制を構築する。	ア・年間の時間外在校等時間が720時間を超える教職員をゼロにする。[0人]	